

ひとくち法話 第七回

飛島村・無量寺 川口 賢司

「言葉が聞きたい」(Ⅱ)

映画「奇跡の人」

三重苦のヘレン・ケラーと家庭教師アニー・サリバンの物語

ヘレンが初めて言葉を獲得する瞬間を描く

「WATER」

ヘレンの暗闇に光が射したときだ。

物には名前があり、それは言葉で表される。

あらゆるものは現れては消えて行く、一瞬たりともとどまってははいない。

言葉で名付けることによって、それを記憶し、人に知らせることができる。

人と共有し、つながりが生まれる。

誰かが、言葉を使い名を呼ぶとき、

私は記憶の底からでもその物を光に出だすことができる。

そして、あなたにもそれはできる。言葉があれば。

言葉は光なのだ。

言葉が聞きたい。

私とあなたをつなぎ、過去を見出し未来を見つける言葉を聞きたい。

だって、言葉は光なのだから。

私はどこから来てどこへ行くのかを教えてくれる光なのだから。